

「すごく良いアイデアだよ、いかだを作ろう!」  
こうして、みんなで運命のいかだ作りに取りかかりました。みんな器用でやる気もあるので、いかだはすぐに出来上がりました。

「みんな乗船よ!」ルーシーが叫びます。  
「ぼくたち、助かったね!」と、白ウサギは嬉しそうです。  
「やったあ!」他の仲間たちも得意げな笑顔を見せています。そして、すぐにいかだに乗り込み、水上を進み始めました。

「すごい!」陽気なウサギは感激しています。「いかだに乗るのは初めてだよ。」  
「あれっ、でも、オールを作り忘れたよ。」水に浮かんだ後で、アナグマが気づきました。  
「行き当たりばったりじゃないか。最悪だ!」不機嫌なクマがぷりぷり怒っています。



そこで、ブタがエンジンの代わりに、クルクル巻いたしっぽをプロペラに変身させ全速で回しました。小さないかだはあっという間に対岸に着き、仲間たちはソックスの泉の近くまでやってきました。

「やったね、ブタさん!」ルーシー、シモンそして動物たちもみんな、ブタの頑張りと溢れるエネルギーを褒めています。彼のおかげで、いかだは無事にたどり着きました。

「もうすぐソックスの泉に着くんだ!」  
陽気なウサギが飛び跳ねるように一番前を歩きます。すぐにグループは泉に到着しました。でも、みんなはソックスたちが泉と凍った水の中に閉じ込められているのを発見しました。

「なんてきれいなもの!」ルーシーは感激しています。  
「僕たちが履くためには、氷を割らないといけないね。」  
と、シモンが言いました。

「固すぎるよ!」不機嫌なクマが文句を言います。  
「氷が割れるまで、氷の上で激しいステップのダンスを踊るってのはどうかな?・・・」  
「激しいステップのダンスって?」ルーシーとシモンがたずねます。  
「簡単だよ。見てて。」

動物たちは凍った水の上になり上がり、出来る限り力強く、かかとでステップを踏みながらエキサイティングに踊り始めました。そして、みんながダンスを始めると、少しずつ氷が割れました。ソックスたちはついに解放されました。ソックスたちはみんなに飛びついて大よろこび!その救世主たちは、ようやくソックスを履くことができます。

「足元が暖かいとすぐにいい気分になれるよ!」  
今回はヘーゼルナッツで口をいっぱいにせずリスが言います。  
「うん、本当だ。」ハリネズミが賛成します。  
「うーん、僕、まだおしりが丸出しだよ。」と、不機嫌なクマ。  
「心配しないで。」ルーシーが言います。「あなたが着られるものを何か見つけましょう。」  
もう一度地図を調べ、『マリニエール川』を見つけました。  
「イエーイ! 行こう!」みんな一斉に嬉しそうに叫びました。

#### 4 のステッカーをここに貼ってね!

ステッカーはLINEで友達になると  
プチバトーのお店\*でもらえるよ!

LINE ID:petitbateaujp

(\*アウトレット店除くプチバトー直営店舗)

マリニエール川へ行くには、  
「スケートリンク」と「粉雪まみれ」小道の2つの選択があります。  
最短ルートを選ぶ手伝いましょう。

Instagramストーリーから投票!

(公式 Instagram アカウント @petitbateau\_jp をチェック)

または、公式 LINE アカウントでは、選んだ道によって違うお話の続きが読めるよ!

公式 LINE アカウント: petitbateaujp をチェック!